

### 五山の送り火にまつわる不思議

#### 送り火の起源

昨年は大雨で見えなかった大の火文字。  
夏の風物詩として有名な大文字の送り火ですが、その起源や由来は意外と謎に包まれています。

平安京では、そのほとんどの行事や風物は朝廷などによる公式な記録が残っていますが、大文字の送り火についてはそのような公式記録がなく、「いつ、だれが、何のために」始めたのかは謎のままになっています。

#### 大文字の謎、そして諸説

文献としては、公家の舟橋秀賢の日記「慶長目件録」の1603年7月16日のところに「鴨川に出て山々の送り火を見物した」と記されているのが最初となります。  
1600年代半ばになると多くの旅行案内書の中に「大文字の送り火」が登場しますが、この時にはすでに大文字の起源は「謎」とされています。「平安時代初期に弘法大師が始めた」説や「室町時代中期に足利義政が始めた」説が有名ですが、どれも決定的な証拠はありません。また、なぜ「大」の字なのかも実は謎のままで、

- (1)「大」という文字を星に見立て悪魔退治の五芳星の意味を込めた
- (2)一年を通して位置の変わらぬ北極星は神の化身とみなされており、その北極星を象った大の字を同じく動かぬ山に灯した
- (3)弘法大師が大の字型に護摩壇を組んでいたところから、など諸説あります。

現在は大文字、妙法、船形、左大文字、鳥居形の五山ですが、明治以前にはこの他に、い、一、竿に鈴、蛇、長刀の十山でした。

明治になり日本では祖先の霊「大文字」や疫病神「祇園祭」を迷信とし、明治初年から10年間祇園祭と大文字を禁止しました。その後再開はされましたが、当時は公的、私的な援助を受けるのが難しく、資金難に陥った送り火は次々となくなり現在の五山になりました。

なくなってしまった五つの送り火ですが、その場所は、いは市原、一は鳴滝、蛇は北嵯峨、長刀は観空寺村にあったとされていますが、竿に鈴は大正初期まで点火されていたにもかかわらず、その場所が一乗寺だったのか、静原だったのか、西山(松尾山)だったのか、もうすでに明確でなくなっています。近代にはいってもなお、なぜ大文字についてはこのような謎が生まれるのか非常に不思議です。

このように謎がいっぱいの大文字、もしかすると静かに暮らす黄泉の国の霊達が「騒がしい現世の人達にその場所を知られたくなくてあえて記録を消している」のではないかとさえ思えてきます。

皆様もぜひ、夏の夜空に幻のように浮かぶ五山の吸い込まれるような不思議さに、現世の煩わしさをひととき忘れてみませんか。







九州北部豪雨の爪痕

### 京都の水害時の対策

7月初旬の九州北部豪雨をはじめ、今夏においても各地で豪雨災害が相次いでいます。そしてこのところ私たちの街・京都にも突然の豪雨が襲うようになってきました。安全に備え、京都の水害時の対策を案内させていただきます。

京都市では「京都市避難勧告等の判断・伝達マニュアル（水害・土砂災害編）」を作成しHP等で公開しています。避難勧告等はどのような災害に対して発令されるか、どのような範囲や区域に発令されるか、またその伝達方法などが記されています。

南区では「災害の発生に備えて、水害時の避難について」としてHP等で公開しています。その中には南区の水害時における河川水位と避難情報が記載されていて、桂川・鴨川等の氾濫の危険性を段階的に伝えています。

### 京都市防災マップ 水災害編

[www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000089718.html](http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000089718.html)

## 当社制作！！ 展示什器のご紹介

ディスプレイの企画会社様からのご依頼で「ミニオンズPOP」を制作させていただき、イオンモールKYOTOにて7/31まで展示していただきました！

こちらは「ミラコアKP」という素材を使用しております。

ミラコアKPとはスチレンの発泡ボードで、中芯を高白色ケント紙で挟んでおり、



印刷がとってもキレイ！  
(インクジェットからの直接出力に  
愛称パッチリ！)



加工性が高いので  
いろんなデザインに  
対応できる！

(細かなカットにも対応)



というのがおすすめポイントです！



京都府のHPにケイジパックが紹介されています。

<http://www.pref.kyoto.jp/sangyo-sien/company/keijipack.html>

手前ミソで恐縮ですが、最近特に力を入れております「ダンボール什器」の事などを中心にお話させていただきました。



是非ご覧ください！！

